

20120

心臓カテーテル検査における Xper Swing の使用経験

【背景】 当院には、2013 年 10 月に PHILIPS 社製 Allura Xper FD10/10 が導入された。この装置に搭載されている「Xper Swing」は多軌道回転撮影を行うことで左右冠動脈を2回の撮影で多角度の画像を収集でき、被ばく低減，造影剤減量に有用とされている【目的】 装置が導入されてから経験した症例にて従来の撮影法と Xper Swing 法で撮影したものとを比較して有用性と問題点を検討する。【方法】 2015 年 1 月～2015 年 5 月までに行なった心臓カテーテル検査を対象に比較・検討を行なう。1. 従来撮影法と Xper Swing 法 (1) 平均被ばく線量 (2) 平均造影剤量 (3) 平均検査時間 2. PCI 症例に於ける Xper Swing 法【結果、考察】 (1) 平均被ばく線量は 467.7mGy と 661.4mGy で Xper Swing 法が低い結果となった。(2) 平均造影剤使用量は 61.6mL と 110.5mL で Xper Swing 法が少ない結果となった。(3) 平均検査時間は 37 分と 54.5 分で Xper Swing 法が短い結果となった。

